

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

「イスラームの終末論と占星術的歴史解釈：10世紀のイスマール派思想に着目して」

澤田 悠平（立命館大学大学院文学研究科）

まずは、本セミナーを企画・運営してくださった東京外国語大学の先生方とスタッフの皆様
に感謝申し上げます。セミナー期間の4日間はとても有意義に過ごすことができましたし、セ
ミナー前も密に連絡を取ってくださったおかげで、セミナーに関する疑問や不安などのない状
態で当日に臨むことができました。誠にありがとうございました。

本セミナーで経験できるのは、受講生による口頭発表、著名な先生方によるご講義、受講生
間の交流、の3点がメインだったと思いますが、以下、それぞれ魅力に感じた点、学びを得た
点を述べさせていただきます。

まずは受講生の口頭発表についてです。私自身も発表の場を設けていただき、院生の皆様や
先生方から大変有意義なコメントをいただくことができました。拙い発表だったにもかかわらず、
院生の皆様からは問題設定に対する疑問点や、史料分析に対する批判的なご指摘をいただ
き、今後克服すべき問題点を認識することができました。他の受講生の方々の発表も興味深
く勉強になるものばかりでした。自分は歴史学の専攻ですが、それ以外の分野の方々の研究か
ら、分析手法などで自身の研究に応用できる点はないか、考えながら拝聴いたしました。し
かしそれ以上に、皆様の研究内容が面白かったというのが一番の感想です。どの発表におい
ても、質疑応答による議論が白熱していたことが、その証拠だと思います。

次に、先生方のご講義についてです。先生方の中には、ご自身の研究人生について少し話し
てくださった先生もいらっしゃいました。とても、興味深く拝聴いたしました。講義内容につ
いても、自分の研究にはどうやってあてはめることができるかを考えていました。中でも長縄
先生のご講義は、歴史学をやっている自分にとって、どのように研究するのか、その研究にど
んな意義があるのかを考える際の、良いヒントになるご講義だったと感じています。

最後に、受講生間の交流についてです。自分はどちらも参加できなかったのですが、セミナ
ー初日終了後の懇親会と、最終日終了後の打ち上げの2度、交流の機会がありました。Slackの
事前自己紹介では、普段周りに中東、イスラームに関する研究の話ができる人がいないとい
う院生の方も多かったため、この交流会はとてもありがたいものでした。このような院生同士で
交流できる機会は、とても良い刺激となって今後の研究のモチベーションを高めてくれるもの
であったと思います。参加できなかったのが本当に残念です。

自分はオンラインでの参加でしたが、今年是对面とオンラインのハイブリッドの開催で、と

でも良い形式だったと感じています。遠隔地からの参加も容易になりましたし、オンラインのみの開催に比べて、院生同士の交流や、先生方との交流もしやすかったと思われるからです。

最後に、本セミナーを作ってくださった、千葉様をはじめとするスタッフの皆様、先生方、参加された院生の皆様に、改めて深くお礼申し上げます。